

# WEEKLY REPORT

2018-2019年度  
国際ロータリー会長  
バリー・ラシン



承認/1965年 6月 25日  
例会日/毎週木曜日 12時 30分  
例会場/江南商工会館1F 大ホール  
江南市古知野町小金112  
TEL 0587-54-8132

事務局/江南商工会館別館1F  
〒483-8205 江南市古知野町小金112  
TEL 0587-55-6554 FAX 0587-59-7720  
URL <http://www.kounan-rc.com/>  
e-mail [kounanrc@beach.ocn.ne.jp](mailto:kounanrc@beach.ocn.ne.jp)  
会長/片平博己 幹事/波多野智章 会報・広報雑誌委員長/猪子明



## 2019年(令和元年)6月20日(木)晴れ 第2652回(当年度第38回)例会

点鐘  
司会

ロータリーソング斉唱  
四つのテスト斉唱

会長 片平 博己君  
SAA 近藤 道彦君  
「それでこそロータリー」

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

ゲスト及びビジター紹介

東名古屋区分区ガバナー補佐 東名古屋区分区幹事  
長瀬輝代之君(名古屋守山 RC) 伊藤陽介君(名古屋守山 RC)



長瀬 輝代之 様

伊藤 陽介 様

次年度クラブ幹事

加藤 健君(名古屋守山 RC) 金森智浩君(名古屋守山 RC)



加藤 健 様

金森 智浩 様

福谷英則君(名古屋守山 RC) 藤田 守君(名古屋守山 RC)



福谷 英則 様

藤田 守 様

尾澤重義君(名古屋守山 RC)



尾澤 重義 様

2019-20 年度 地区大会実行委員

今村達雄君(名古屋清州 RC) 酒井温司君(名古屋清州 RC)



今村 達雄 様

酒井 温司 様



先日、3年以下のメンバーの研修会を行いました。その中で「ロータリーの奉仕理念」を表現する「超私の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を、ほとんどのメンバーが聞いたことがないということでした。確かにこのあたりのことを体系立ててレクチャーする機会がありませんでしたし、あったとしても理解できず忘れてしまったのかもしれませんが、最近、以前ほどいろいろな機会に耳にすることが少なくなったような気がします。そこで、私自身入会間もない頃、これらの言葉が理解できずいろいろ探した中で、自分なりになんとか納得できた内容を紹介させていただきます。

確か第2840地区のどなたかが挨拶か卓話で話された内容です。相当以前の話で、現在取り巻く環境は変わっていますが、そのあたりは差し引いてお聞きください。クロネコヤマトの宅急便を創ったヤマト運輸の元会長小倉昌男さんのお話です。小倉昌男さんはロータリアン、銀座RCの会員でした。

ヤマト運輸はもともと関東を中心としたトラック運送をしていました。デパート(三越)の配送の下請けもしていましたが、そういう仕事を全部やめました。宅急便という今までどこにもなかったサービスが日本には絶対必要だと信じた小倉さんは、「そんな事業うまくいくはずがない」と社員全員が反対するのを押し切ってクロネコヤマトの宅急便を開発しました。

1976年サービス開始の初日の取り扱い個数は、わずか11個だったそうですが、現在は年間12億個以上を取り扱い、私たちの生活に欠かせない、なくてはならない仕組みになっています。

クロネコヤマトのサービスは「ダントツのサービス」でなければならない、と小倉さんは言います。

「ダントツのサービス」とは、お客様に100%の満足を与えること。具体的には、約束した日に預かった荷物をまちがいに傷つけないで配達し、お客様との約束を絶対裏切らないこと、です。

小倉さんが宅急便事業を始めるにあたって掲げたスローガンが「サービスが先、利益は後」という言葉です。

小倉さんは「サービスが先、利益は後」というスローガンをクロネコヤマトのセールス・ドライバーに言い続けました。利益は考えなくてよい。利益はダントツサービスの結果である。だから「サービスが先、利益は後」というわけです。ヤマトの絶対目標は、「お客様の立場に立って考える良いサービスの実行」でした。

小倉さんが言い続けた「サービスが先、利益は後」というのは、「サービス」と「利益」の関係を理解しない人からは「きれいごと」と聞こえたかも知れません。しかし、きれいご

とでクロネコヤマトは伸びたわけではないことは、私たちはよく知っています。今までどこにもなかったサービス、生活になくてはならないサービスとして世の中から認められたから、クロネコヤマトは成長したのです。

私たちロータリアンには「サービスが先、利益は後」という言葉はすぐに腑に落ちます。ロータリーには二つのモットーがあります。

“Service above Self”と“He profits most who serves best”の二つです。“Service above Self”は「超私の奉仕」、日本のロータリーの創始者米山梅吉さんは、これを「サービス第一、自己第二」と訳しました。もう一つの“He profits…”は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と訳されていますが、これも「ベストなサービスをすれば、結果として最大の利益を得る。」ということです。

小倉さんの「サービスが先、利益は後」という言葉は、この二つのロータリーモットーを凝縮した言葉のように私には感じられ、ロータリアンであった小倉さんならではの言い回しではなかったかと思うのです。以上、引用です。

ところで、私は、これまでロータリーを退会しようと思ったことがあります。リーマンショックで会社の経営状態がとても悪化した時です。何かの機会に、今はお亡くなりになりましたが、福田パストガバナーに「ロータリーどころじゃない」というような趣旨の話をしたときに「ロータリーをしっかりと学べば商売はうまくいくようになる」と言われました。正直なところ納得できませんでした。ただふと、入会した時に出会った先に話した内容を思い出し、目先の損得ばかりにとられ、もがいている自分に気づきました。これら二つの理念、哲学が「きれいごと」ならば語り継がれることはなく、ヤマト運輸は成長しなかったはずで、「きれいごと」ならここまでこの言葉も残らなかったはずで、とにかくぐっと我慢して、「サービスが先、利益は後」「利益は、サービスの結果」であると自分自身にも社員にも語り掛けました。そして新たに「素直に明るく前向きに行動し、当社に関わる全ての人を幸せにすることを目指します」という経営理念を作り、コツコツ進めながら何とか今日も商売を続け、ロータリークラブに在籍できております。

皆様方も、これからもロータリークラブを通じて多くの機会と多くの言葉に接することと思います。全てが納得できることではないかとは思いますが、まずは素直に取り入れ、納得できなくても自分の中の引き出しにしまっておくと何かの機会に活かすことができるかも知れません。

皆さん、ロータリークラブで共に学び楽しみましょう。

ガバナー補佐挨拶

東名古屋分区分ガバナー補佐長瀬輝代之君(名古屋山RC)



地区大会 PR 挨拶

2019-20 年度 地区大会実行委員

今村達雄君(名古屋清州 RC) 酒井温司君(名古屋清州 RC)



幹事報告 -別紙- 幹事 波多野 智章君  
祝 福 委員長 尾関 育良君  
出席報告 委員長 富永 典夫君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
45名	27名	18名	75.00%
前々回 欠席者2名(6月6日)			
補正出席率 94.59%			

ニコボックス 富永 典夫君

○名古屋守山 RC の新会員と交流にまいりました。

長瀬 輝代之君

○今日は宜しくお願いします。伊藤 陽介君

○地区大会の紹介の為 今村 達雄、酒井 温司各君

○名古屋守山 RC の皆様、地区大会実行委員会の皆様  
ようこそ江南 RC へお越しくださいました。

本日の卓話1年をふりかえって、担当者の皆様よろしく  
お願いします。

片平 博己、加藤 義晴、波多野 智章、暮石 哲真各君

○お陰様にて、元気で開業 43 年を迎えることが出来ま  
した。クラブ奉仕委員長として1年お世話になりました。

倉知 正憲君

○先日のマスターズ会コンペで優勝することが出来ま  
した。長い長いトンネルを抜けてスランプ脱出です。

ありがとうございました。堀尾 庄一君

○本日の卓話「1 年を振り返って」委員長の皆様ご苦勞  
様でした。名古屋守山 RC の皆様・19-20 年度地区  
大会実行委員の皆様ようこそ江南ロータリーへ

伊藤 鶴吉、松岡 一成、富永 典夫、杉浦 賢二、

伊藤 靖祐、岩田 静夫、木本 寛 各君

卓話

「1 年を振り返って」

クラブ奉仕委員長 倉知 正憲君



職業奉仕委員長 木本 寛君



2760地区の職業奉仕委員会の研修で、ロータリーの  
活動における職業奉仕の精神は、ロータリークラブの奉  
仕活動における「根源」であるとの報告がありました。

ロータリーの主な奉仕活動に社会奉仕、青少年奉仕が  
あります。ある事業者が無償で商品を提供し、低所得者  
の生活支援をすることは社会奉仕に当たるかもしれませ  
ん。事業活動の中で、青少年に職場体験をしてもらう  
ことは青少年奉仕に当たるかもしれません。

では職業奉仕とは何でしょうか。職業奉仕とはロータ  
リークラブの奉仕活動「根源」となるものです。これが主  
な研修のテーマでした。「根源」の意味は、社会奉仕、青  
少年奉仕等の奉仕活動を継続する力、即ち事業活動を  
継続しつつ、職業上の倫理を高め、奉仕をする精神、奉  
仕する人を育てるという意味であると思われま

江南ロータリークラブでは、職業奉仕委員会の活動と  
して職場見学を実施しており、本年度は愛知県弁護士  
会で例会を開催し、名古屋地方裁判所を訪問し、法廷  
傍聴を実施しました。裁判手続がどのように行われてい  
るのは、その国にとって重要な課題といえますし、こ  
の点、日本国内のみならず世界から注目されています。  
アメリカのハーバード大学の日本史講座では、いわゆる  
「赤穂事件」物語としての「忠臣蔵」が取り上げられてい  
ます。そのような事件が取り上げられたのは、「事件」に  
対する「裁判」の成り行きに注目しているからです。

「赤穂事件」では江戸城殿中松の廊下で刃傷事件を起  
こした浅野匠頭は、余り取調べを受けずに即日切腹(死  
刑)となりました。他方、この裁きに不平、不満があつた  
いわゆる赤穂浪士は、吉良邸打ち入り事件後、2カ月の  
取調べの結果、全員切腹(死刑)となりました。日本史  
講座では、この裁きの結果、即ち十分審理したうえで処  
罰をしたのかどうかに着目しました。幕府は、最初の

浅野匠頭に対する審理や処罰が不十分であったことを反省し、これを反面教師として赤穂浪士に対する処罰の慎重に審理しました。日本史講座の講師や同講座を受講した学生は、この点の日本人の学習能力と先進性を大変評価しています。

### 社会奉仕委員長 中村 耕司君



昨年10月31日に、地区補助金を受け取りながら開催しました本年度のメイン事業「いのちについて考える～生命誕生、そしてつながり～」の際には皆様のご協力を頂き無事に終わることができありがとうございました。年初に片平会長から、何でもいいから中村君のやりたい事業をいくつか考えて提案してほしいを言われ、ロータリーらしい事業は何だろうと考えましたが思い浮かびませんでした。そこで、やりたいことは何だろうと考えたら弊社が支援会員としてサポートしている 子どもと文化の森から活動報告として過去に実施した いのちの授業DVDを見て感心したことを思い出し、問い合わせしてみることにしました。ロータリーには予算はあるが、企画運営するノウハウはないので、いくつかの問題をクリアする必要があります。

- ① 子どもと文化の森の会員向け事業ではないのでサポートしてもらえるのか。
- ② どこの中学校で実施できるか、学校側の都合として年間カリキュラムに組み込んでいただけるか。
- ③ 江南 RC 理事会承認できるか。当日会員の協力が頂けるか？(ロータリーらしい事業か？)
- ④ 地区補助金の対象事業をクリアできるか？

先ず、子どもと文化の森に相談したら、予算がなくて困っていたと…。早速古知野中学校の校長先生に掛け合ってもらい、前向きな返事が頂けました。

次は片平会長を初め理事会メンバーの承認頂く際に、

- ・思春期の年頃の中学 2 年生に対し性教育として勘違いされるのではないか？
- ・男子生徒は興味がないのではないか？
- ・胎児人形って何？
- ・まったく新しい取り組みでイメージし難いがロータリーの名前に傷つかないか？
- ・くれぐれも慎重に事業内容を吟味してほしい…

などなど貴重なご意見を頂き、本事業を多面的に事前検証することができ大変勉強になりました。

地区補助金は申請方法や用途資金の制約など、独特な決まりがあり、事前に財団事務所に問い合わせても明確な回答は得られずハンドブックを見て判断してくださいと…わかり難いから聞いているのになあ…のいう状況でしたが何とか補助金受け取ることもできました。

当日は、近藤さんに講師をお願いし快くお引き受けいただき感謝申し上げます。

また、胎児人形の受渡という単純作業にも関わらず皆さんにご協力いただき併せてありがとうございました。

撮影班の長瀬さん、猪子さんにも地区補助金報告書掲載する写真が必要で、細かなお願いにも的確にご対応頂きました。ありがとうございました。そのおかげで有名な倉知さんが生徒に胎児人形を渡す写真を撮影することができました。この写真は次年度会員増強ポスターやリーフレットにも掲載予定で、まさに江南 RC の顔ともいえるショットになり、担当委員長としてもうれしく思っています。

事業終了後も会報委員長の猪子さんのご尽力のお陰で、地区のホームページへ掲載して頂き、更に古田さんの心使いのお陰でロータリーの友4月号にも2ページで取り上げて頂くことができました。有難うございました。

<https://www.rotary2760.org/g18-19/rc2/2018/10/post-12.html>

今回の事業を通して「小さくこじんまりまとめた事業よりも、新しい試みとして出来るかどうか分からない位のチャレンジするような事業を行った方が評価も高く、満足感も大きい」ということを体感することができました。思い起こせばこの様な経験は過去にも堀尾年度の50周年記念事業「池上彰後援会」の時の副幹事と50周年実行委員会メンバーとしての経験済みであり、チャレンジ出来たのではないかと考えています。人生には無駄なことはないと再認識できました。

最後に、次年度も岩田会長の下、幹事という立場で伊藤ガバナー輩出、55周年という過去に経験したことのない年度でまさにチャレンジする年になりますどうか皆様のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

点 鐘 会長 片平 博己君  
本日の食事



(担当 暮石 哲真)